市報とおかまち　平成18年（2006）Novenber　第40号
TOKAMACHI
11.25

だんだん

伝える芸・伝わる心

11月4日㈯に行われた、スーパー素人劇団「かわにし夢きゃらばん」の演劇「妻有姫（おシンデレラ）」と、「ふるさとの息吹2006」での「松之山上川手歌舞伎」。出演者の息遣いがそのまま伝わる舞台。文化の秋を彩った感動を呼ぶ名演に、会場から惜しみない拍手が送られました。（P19～20）

主な内容

●［特集］
対話がひらく市の未来 …… 2-3
●秋の叙勲・表彰 …… 6-11
●新たなまちづくりに向けて …… 12-13
●地域の風～支所からのたより～ …… 14-15
●oh! my クラス なじょもなじょも ほか …… 16-17
●まちの話題　TOPICS …… 18-20
●「光の館」新日本の様式100選に選定 …… 21
●税金関係の各種説明会を実施します …… 22
●お知らせ・ガイド …… 23-27
●イチオシマップ－伝説－ …… 28

愛称「だんだん」は、方言のあいさつ「だんだんどうも」、「河岸段丘・棚田」、「ステップアップ」などを表しています。

特集 対話がひらく市の未来

市民と市長の対話「まち・むらトーク」12か所で開催

市長ほか市の関係者が地域に出かけ、市民と直接対話する「まち・むらトーク」が市内12か所で開催され、活発な意見交換が行われました。

地域の道路や除雪の課題など生活に密着したテーマや、農業や商工業・医療など地域全体の問題などについて、市民と市長が率直に意見を交わし、これからの市の進むべき方向をさまざまな角度から考えました。

地域の課題を話し合うテーマトーク（松代総合センター）

今年度新たに始まった「まち・むらトーク」は、旧市町村単位に設置された地域協議会を基本に、市内全域を対象に行われました。十日町地域は範囲が広いため、おおむね中学校区単位で開催され、全体で12か所（P5参照）となりました。

各会場では、おおむね次のような流れでトークが展開されました。

1、開催地代表あいさつ

2、市長トーク
これからのまちづくりの方向や市が取り組んでいる課題などについて、市長が考えを述べました。

3、テーマトーク
あらかじめ申し込んだ市民代表が、それぞれのテーマに沿って市長に質問・意見交換しました。

4、自由トーク
会場の参加者が自由に質問・意見を述べて、市長ほかと意見交換しました。

5、まとめ・閉会

市長トーク

各会場での市長トークの内容を抜粋して紹介します。

1 まち・むらトーク開催趣旨

十日町市がこれからのまちづくりの基盤に据えた「住民参加と協働によるまちづくり」の必要性について、共通に理解し実践していくためにスタートしたものです。

「本質は現場にあり」という私の信念に基づき、皆さんの声を直接聴きたいからでもあります。

2 自立と協働（住民参加と協働のまちづくり）

これは、今の大きな社会情勢の変化に着実な対応を図るための新たな自治体運営の形です。その変化とは、①人口減少と少子高齢化の進行する社会、②国・県及び自治体の財政状況悪化、③地方分権一括法の施行に伴う自治体経営能力向上の必要性などです。

なぜ今、まちづくりに住民参加や協働が求められているのか

⑴今は、暮らしを営む人々の合意なしに施策は進められない時代です。そのため、住民参画・行政との協働が必要 となります。

⑵個人のライフスタイルが多様化する中で、公共サービスに求められるものも多様化・高度化・複雑化しています。行政ができることの限界と行政の力のみでは解決できない実態もあります。そのため、地震など災害時に生命財産を守る仕組みや安全・安心の地域づくりを進めるための地域力の再生・行政との協働が必要です。

⑶市では本年3月、住民参加と協働をめざすまちづくりを総合計画の基本理念に据えて、厳しい情勢変化の中でも官民が協働して、地域の価値・魅力を磨き真の豊かさを目指すまちづくりの方向を定めました。

新たに設置した地域協議会には、地域運営の担い手として期待しています。できるところから着実に、継続して取組むことが重要だと考えています。地域の隠れたエネルギーを引き出す協働のまちづくりに、ともに取り組みましょう。

3 市政の重要施策

市政における重要な施策についていくつかお話しします。

⑴来年度から始まる品目横断的経営安定対策

この取り組みは、戦後の農政を大転換し、支援を認定農業者などの担い手に限定するという新対策です。いろいろな地域条件がある中で、新しい時代の農業を展開するために、十日町市の農業・農家の進む道を切り開いていきたいと思います。

⑵高速情報通信網整備事業

市では40人からなる委員で構成する「地域情報化推進会議」で、将来を見据えた地域の情報化についていろいろな検討協議を行っています。

この地域情報化の基本には、子供から年配者まで偏りのない情報提供を行うためには、通信（インターネット）だけではなく、放送（テレビ）もその基盤に据えて考えています。

今後、推進会議などの成果を踏まえて「地域情報化アクションプラン」をまとめ、その後、詳細な内容を住民説明会で説明していきたいと考えています。

⑶県立十日町病院建設課題

7月に、医師会や病院の院長、経済界や地域協議会の代表の皆さんにお願いして、十日町地域中核病院建設推進委員会を設置し、病院の機能や規模などについて、色々検討してもらったところです。

十日町病院は、現在1次医療から2次医療まで対応していますが、県はこれを2・5次医療まで対応できるよう機能強化すると言っています。市としても、現状の医療機能に加えて、救急医療機能の充実、入院患者のための機能充実などの強化が必要であると考えており、県に対して要望していきます。

テーマトーク

各会場でのテーマトークは内容が多岐に渡り、地域固有の課題が多いことから、市全体に関係するものの中からいくつか代表的なものを紹介します。

1 農業をテーマの地域づくり

（意見・質問）

①経営規模拡大のため、やる気のある農家に農地の集約ができるよう、市から支援してほしい。

②来年度から始まる品目横断的経営安定対策の支援を受けられない農業者に対して、どのように対処していくのか。

（市長コメント）

①農業経営基盤を高め安定させるためには、農地の集積による規模拡大が不可欠ですが、だれもが借りたいと思う平坦地の優良農地は出し手・貸し手が少なく、逆に耕作条件の悪い農地は出し手があっても作り手、借り手が少ないというミスマッチとなっている状況です。

市農業委員会では、農地の流動化を進めるために今年1月に全農家に農業経営動向のアンケート調査を行いました。現在、地域の農業委員が規模を縮小したい農家への聞き取りを行っているところです。

今後、規模を拡大したい農家については、農地のあっせん申出書を農業委員会へ提出していただき、リスト掲載者から優先的にあっせんすることにしています。

②平成19年度から始まる品目横断的経営安定対策の加入対象者は、認定農業者、特定農業団体または特定農業団体と同様の要件も満たす組織であることとされています。この要件は、地域の農用地の3分の2以上の利用集積を目標とすること、組織の経理を一括して行うこと、農業生産法人計画を有することなどが挙げられています。

集落営農で経営がうまくいかなかったときの具体的な支援策はありませんので、集落営農を進めるうえで、これらの要件について十分話し合い、農業機械の共同利用等による生産コストの低減や経営の健全化が図られる体制整備を進めてほしいと思います。品目横断的経営安定対策は一つの手段であり、まず個々の農業経営や集落の実態などを話し合い、今後の営農体制をどうするかの検討が必要となります。このために、市として農業元気センターを立ち上げ

ています。ぜひ、私どもを呼んでください。農業経営についてそれぞれの集落の実情に即した相談を進めていきたいと思っています。

2 県立十日町病院の建設と松代病院の存続

（意見・質問）

①県立十日町病院の建設はどこにどのような規模を考えているのか。

②県立松代病院の現状規模での存続を願う声が圧倒的だが、公的病院設立の可能性、見通しはどうか。

自由トークで意見交換（中条公民館）

（市長コメント）

①十日町地域中核病院建設推進委員会で用地についても検討しましたが、新しい病院の施設規模などを考えると5ヘクタール程度は必要だということで意見が一致しています。

建て替え中に診療を休むことはできませんので、診療を続けながら新しい病院を建てる必要があります。現在の病院敷地に改築となると面積が約1・3ヘクタール、隣接地の裁判所と検察庁の土地を合わせても1・7ヘクタールしかなく、この狭い敷地の中で建設することは難しいものと思っています。

病院をどこに作るかは最終的には県が決めることですが、市としては高規格道路のインター周辺の土地利用や松代・松之山地域を含めた利便性、面積確保の面などから、小黒沢地内が適地であると考えています。

病院が移転した場合の跡地には、市民の皆さんが安心して暮らせるよう、また、ますます進む高齢社会に対応する施設などが中心市街地に不足していることなどから、一次医療機関や福祉施設などを整備したいと考えています。

②県は、十日町病院を地域中核病院に機能強化することや医師確保の仕組みを作ることなど、医療の充実を図る方針でいますので、松代・松之山地域の皆さんにとっても望ましいことと思っています。

ただ、松代病院については、十日町病院の改築に併せ、その機能を十日町病院へ統合し、県立としては廃止するというものであり、皆さん心配されているところです。私も、今後も県の責任において引き続き維持するよう要望しているところです。

運営主体について県は、どのような運営主体となっても医師確保に責任を持つと言っています。医師確保をはじめ地域で必要な医療を確保できるということであれば、十日町病院についても公設民営で了承していますので、十日町病院との連携という面も考え合わせると、県営に固執する必要はないと考えています。

3 市道改良の今後の見通し

（意見・質問）

①近年市道改良の予算が少なくなって改良が進んでいないが、今後の見通しはどうか。

（市長コメント）

①十日町地域の道路新設改良費の予算は、5年前が5億8、000万円でしたが、平成14年度から大きく減少し、今年度は1億円となっています。

少なくなった理由は、中越大震災やたび重なる豪雨災害の復旧経費への対応があったほか、合併協定の中で旧5市町村が均衡ある発展を目指していくための配慮もあります。また、平成19年度までの継続事業で建設している四日町市営住宅の工事費が大きく、その影響を受け道路予算は減少しています。

今後5年間くらいの見通しは、災害復旧に関連した予算は減少するものの、市税は今の経済情勢では増加がそれほど見込めないほか、交付税は三位一体の改革により年々減少傾向にあります。また、大きな財源である地方債も、財政の健全化のため抑制せざるを得ません。

来年度以降、高速情報通信網整備事業を優先課題として取り組む必要があると考えていますので、今後の道路予算の増額は厳しいものがあると考えています。

交通量の少ない山間の道路については、原材料支給による舗装が安価で最良な手法と考えていますので、継続的な利用をお願いします。

そのほかのテーマや詳しい内容については、市役所・情報館などで閲覧できるほか、市のホームページに掲載してありますので、ご覧ください。http://www.city.tokamachi.niigata.jp/

■問合せ先　総務課広報広聴係
☎757―3111（内線213）

「まち・むらトーク」開催結果

開催日	地域・地区	場　所	テーマ	テーマトーク内容	参加者数
8月23日㈬	水　沢	水沢公民館	地域医療のこれからと高規格道路を生かしたまちづくり	①高規格道路インターチェンジ周辺の開発②その周辺における水沢地区全体の商工業の方向性③高規格道路のインターチェンジ周辺と地元の活性化④十日町病院等、地域医療問題	90人
10月4日㈬	大井田	大井田コミュニティセンター	大井田に住んで良かったと言える地域づくり	①十日町市地域協議会②コミュニティセンターの管理運営③中央給食センター撤退後の跡地利用と除雪④大井田の郷公園の整備と管理⑤大井田の郷公園の活用と周辺環境の整備⑥大井田の住みよい環境づくり	90人
10月5日㈭	西　部 高　山	西部会館	十日町西地区のまちづくり	①区画整理事業の促進 ②西中央通りの西線から下島バイパスまでの延伸 ③下島バイパス南への延伸	50人
10月11日㈬	川　治 六　箇 八　箇	川治公民館	安全・安心なまちづくり地域の活性化をめざして快適な住みよいまちづくり	①安全・安心なまちづくり ②雪国振興モデル地区宣言「雪ふる里」構想 ③川治地区全体の流雪溝整備計画と今後の事業展開 ④新婚世帯等に対する家賃補助制度の新設 ⑤震災による借家世帯に対する家賃補助制度	100人
10月12日㈭	松　代	松代総合センター	高齢化社会における住み良い地域づくり	①棚田を守る農業振興策 ②安心して暮らせる医療と福祉 ③支えあう克雪対策	140人
10月13日㈮	吉　田	吉田ふれあいスポーツセンター	2009年国体を活用した地域づくり	①中山間地域総合整備事業 ②国体クロカンコース造成関連 ③養護老人施設 ④市道北鐙坂南鐙坂線の拡幅工事の見通し ⑤情報インフラ整備	90人
10月23日㈪	川　西	千手中央コミュニティセンター	いきいきとした地域づくりを目指して… －教育・農業・ まちづくりを考える－	①千手地区街路事業 ②流雪溝の用水確保 ③学校統合 ④地産地消の推進	90人
10月24日㈫	中　里	中里総合センター	農業と観光を中心とした中里の元気づくり	①コシヒカリのくず米を活かした特産品開発のための製粉機の導入②清津川の水問題と観光開発③農業振興を図るために農地の集積・他地域との交流・魚沼米に付加価値をつけるための雪室の建設④中里地域振興基金を活用して持続可能で発展する地域づくり	110人
10月26日㈭	松之山	松之山自然休養村センター	安心して住み続けることができるための地域環境整備を目指して	①浦田地区内の市道および県道の改良②県立松代病院について③品目横断的経営安定対策④県立安塚高校松之山分校の存続⑤十日町消防署松之山分遣所の存続⑥災害時の迂回路確保⑦道路除雪⑧保安要員制度	130人
10月27日㈮	中　条	中条公民館	中条地区の生活環境・整備と国宝笹山縄文の取組みと地元のかかわり	①下水道整備事業の中条地域内工事完了と供用時期②林道及びスポーツ施設の今後③国道117号線歩道整備の進捗状況と見通し④冬期間117号線の迂回路としての農道の除雪の可否⑤笹山遺跡に関わる「国宝館・火焔の都」など公園化事業の見通しと市としての取組み⑥イベントや有志による地元としての様々な取組み対する今後の市の関わり	60人
11月7日㈫	十日町 中　央	市民会館	どうする市街地活性化	①テクノスクールの再利用②本町分庁舎を核とする中心市街地に対しての市の活性化構想③県立十日町病院の移転等に関する現状と将来展望④老朽化の著しい旧松竹ビル、旧田倉ビルの今後の方策⑤TMO統一景観形成モデル事業(駅通り「和」のまちづくり)	100人
11月8日㈬	下　条	下条利雪親雪総合センター	市道改良の今後の見通しと市の財政状況について	①市道改良の今後の見通し ②市の借入金の実態と今後の財政見通し	90人

おめでとうございます

秋の叙勲・表彰

秋の叙勲が11月３日（文化の日）に発表されました。また、さまざまな分野で永年にわたり活躍・貢献した皆さんが国・県などから表彰されました。晴れの栄誉に輝いた皆さん、おめでとうございます。

旭日小綬章（産業功労）

吉澤慎一さん（本町１下・72歳）

永年にわたる産業振興に貢献した功績が認められ、吉澤慎一さんが秋の叙勲に輝きました。

吉澤さんは、大学を卒業した昭和32年に家業の吉澤織物㈱の専務取締役に就任。同55年に社長に就任して社業の発展をけん引するとともに、織物工業協同組合理事長、商工会議所会頭など、十日町市の産業界のリーダーとしてきもの産業はもとより、商工業の進展につながる数々の事業を発案・実行して、平成6年には新潟県中小企業団体中央会長にも就任。産業界に多大な貢献をしました。

吉澤さんは、「若くして産業界に入ったおかげで、多くの一流の経営者から薫陶を受けることができました。『知行一致』を座右に、一つひとつの課題に全力で取り組んできただけです。これからも先人が築いた文化を次代につなげる活動を続けます」と受章の感想と抱負を語りました。

旭日双光章（地方自治功労）

佐藤利幸さん（天水越・77歳）

永年にわたる地方自治の振興に貢献した功績が認められ、佐藤利幸さんが秋の叙勲に輝きました。

佐藤さんは、昭和54年に旧松之山町議会議員に初当選し、3期12年務めた後、平成3年には松之山町農業協同組合長に、5年には初代しぶみ農業協同組合長に就任し、農業の振興に寄与しました。また、平成7年には松之山町長に当選。17年の合併により失職するまでの3期10年間、町政発展に多大な貢献をしました。

受章にあたり佐藤さんは、「市町村合併が一番の思い出。苦労があったが、結果的には歴史が評価してくれると思っています。ナメコ生産施設の整備や老人保健施設の誘致などが地域の雇用拡大につながったこと。また、森の学校キョロロを建設し多くの入込客があり喜んでいます。受章は、町民や家族の協力のおかげです」と話していました。

旭日双光章（地方自治功労）

庭野耕策さん（新座第３・83歳）

永年にわたる地方自治進展のための功績が認められ、庭野耕策さんが秋の叙勲に輝きました。

庭野さんは、昭和54年5月、十日町市議会議員に初当選以来、平成7年4月までの4期16年にわたり、市議会議長をはじめ、建設企業常任委員会正副委員長や水資源対策特別委員長、苗場山ろく開発事業特別委員会副委員長など要職を歴任してきました。また、市議会議員として豪雪対策や農業振興などにも、多くの功績を残しました。

受賞にあたり庭野さんは、「これまでやってこられたのは、多くの支持者の後ろだてがあったからこそです。そして、4年間市議会議長を務めることができたのも、当時の議員の皆さんが、あたたかい気持ちで理解、協力してくれたおかげだと感謝しています」と受賞の喜びを話していました。

瑞宝双光章（消防功労）

田村久策さん（昭和町１・77歳）

永年にわたり、消防団活動に従事した功労で田村久策さんが秋の叙勲に輝きました。

田村さんは、昭和36年に市消防団に入団して以来、平成13年に退団するまでの40年間、消防団員として地域の火災予防や安全活動に尽力。この間、市消防団団長や平成9年から13年まで県消防協会理事を歴任し、平成11年には消防庁長官から功労章を授与されています。

社業を営み、織物業の振興に尽くす傍ら、「自分たちの地域は自ら守る」を理念に、防災への啓発活動や消防団組織育成に労を執りました。また、小・中学校後援会や十日町文化協会連合会の設立に貢献するなど、その活躍は多岐にわたります。

田村さんは、「両陛下に拝謁（はいえつ）し受章の重みを感じました。これが終わりでなく、今後も地域の役に立っていきたいです」と話していました。

瑞宝単光章（消防功労）

橋本惣太郎さん（新水・74歳）

永年にわたり、消防団業務に従事した功労で、橋本惣太郎さんが秋の叙勲に輝きました。

橋本さんは昭和25年に旧中条村消防団に入団以来、平成3年に退団するまでの41年間、地域の防災安全活動に努めました。その間、昭和61年から分団長に就任し、平成2年には消防庁長官永年勤続功労章を受章しています。

また、昭和25年に起こった中条池谷の大火災を教訓に、地域の防災意識の啓発活動にも積極的に取組みました。現在、地域防災活動として行われている月2回の消防団によるポンプ車の巡回や、飛足第一小学校児童による夏休みの火の用心運動の推進などに尽力しました。

橋本さんは、「今回の叙勲は、各集落の皆さんから今まで消防団活動に協力してもらい認めていただいた結果だと思っています」と話しました。

総務大臣表彰（公平委員）

金澤眞治さん（太田島第２・76歳）

永年にわたり、公平委員会委員に従事した功労で、金澤眞治さんが総務大臣表彰に輝きました。

金澤さんは、平成3年に旧十日町市公平委員会委員に就任以来、平成17年に退任するまでの14年間、市職員の利益保護及び公正な人事権を保証する公平委員会の業務に従事しました。また、平成12年には旧十日町市公平委員会委員長に就任し、同年、全国公平委員会連合会8年表彰を受賞しました。

金澤さんは、「就任直後に全国公平委員会の判決文集に掲載されたような難しい案件があり、3か月法律用語辞典を勉強して報告したことが一番の思い出です。今回の表彰では、皇居で天皇陛下に拝謁した際、じかにねぎらいのお言葉をいただき、大変感動しました」と話しました。

総務大臣表彰（公平委員）

佐藤　睦さん（新光寺・70歳）

永年にわたり、公平委員会委員に従事した功労で、佐藤睦さんが総務大臣表彰に輝きました。

佐藤さんは、平成6年7月に県内では、新発田市に次いで2人目の女性委員として旧十日町市公平委員会委員に就任し、以降合併により退任するまでの10年9か月の間、委員を務めました。就任期間中は、委員の職務を誠実かつ公平に遂行し、市職員の身分に係る事項の解決に向けて鋭意努力を重ねました。

受賞にあたり佐藤さんは、「学ぶことの多い仕事でした。皆さんのお世話になりながら、無事任務を全うできてホッとしています。両陛下に拝謁を賜り本当にありがたいことと思っています。これからは自然に親しみながら、生活を楽しみたいです」と話していました。

総務大臣表彰（統計功績）

上田喜一郎さん
（梅沢・70歳）

永年にわたり、国勢調査業務に従事した功績で、上田喜一郎さんが総務大臣表彰に輝きました。

上田さんは、国勢調査、農林業センサス、事業所統計調査などに従事し、特に5年に1回実施される国勢調査は、昭和35年から8回にわたって調査員を務めました。地域の事情に精通し、調査書類の整理や検査も迅速で正確だったことなどが評価されました。

上田さんは、「国勢調査の基準日は10月1日で農繁期のため、調査する側よりも調査される各世帯の方が大変だったと思います。雨の日は書類を濡らさないように注意しました。自分に与えられた役割をそのままにしてきただけで、もったいない気がします。これからも、できる限り協力したいと思います」と語りました。

総務大臣表彰（統計功績）

佐藤榮一さん
（小脇・75歳）

永年にわたり、国勢調査業務に従事した功績で、佐藤榮一さんが総務大臣表彰に輝きました。

佐藤さんは、昭和50年から平成17年まで、連続7回の国勢調査の調査員として活動しました。温厚で地域住民の信望も厚く、調査書類の整理や内容検査も的確で、また、報告期限も厳守するなど業務内容が優秀であったことが認められました。

佐藤さんは、「オレがする前、おやじもずっと統計調査員をやっていたんでの。小さい集落でも、そこで推薦してもらったんだんが続けて来られた。親子2代で信用してもらっているってことだんがの、ありがたいこと、皆さんのおかげだて。こいからかの？良ければ、やらしてもらうての」と受賞の喜びをかみしめていました。

総務大臣表彰（統計功績）

佐藤修一さん
（漆島・56歳）

永年にわたり、国勢調査業務に従事した功績が認められ、佐藤修一さんが秋の総務大臣表彰に輝きました。

佐藤さんは昭和50年の国勢統計調査に従事以来、31年間にわたり、水沢地区山間部の集落を担当し、7回の国勢調査のほか、農林業センサス、住宅統計調査などの各種統計調査に尽力しました。

受賞にあたり佐藤さんは、「健康でいられたことと、地域の皆さんのご協力でここまで続けることができました。統計調査を続けていると、山間の集落の戸数がどんどん減ってきていることを実感します。また、ここ1～2回の国勢調査の際に、個人情報の保護という理由で、情報を提供しない人が出てきたことが、30年間の統計調査で一番変化してきたことだと思います」と話しました。

総務大臣表彰（統計功績）

俵山正亥さん
（二ツ屋・71歳）

永年にわたり、国勢調査業務に従事した功績で、俵山正亥さんが総務大臣賞に輝きました。

俵山さんは、昭和45年に国勢調査の調査員として従事して以来、平成17年までの7回、そして住宅・土地統計調査、工業統計調査、農林業センサスなど各種統計調査の調査員を務めました。また、就業構造基本調査では、主任指導員としての任にも当たりました。地域の事情に精通しており、その誠実さと責任感の強さで市民からの信望も厚く、正確かつ迅速に調査事務に当たったことなどが評価されました。

俵山さんは、「受賞は、調査に協力してくれた皆さんのおかげです。国勢調査は、国の基本的で重要な統計調査です。従事することで社会の役に立てて光栄です」と話していました。

総務大臣表彰（統計功績）

庭野武一さん
（中条旭町・63歳）

永年にわたる国勢調査業務に従事した功績で、庭野武一さんが総務大臣表彰に輝きました。

庭野さんは、昭和40年に国勢調査に従事して以来、農林業センサスや事業所統計調査に携わり、迅速で正確な調査を実施してきました。特に国勢調査では、昭和40年から平成17年までの間、延べ6回にわたり携わり、調査の趣旨、重要性を理解し調査書類の整理を実践してきました。

庭野さんは、「大正9年の第1回国勢調査に祖父も携わっていて、記念の写真も残っています。これまで苦労と思うことはなかったですが、昭和40年に電算機が導入され、調査票からカードへの転記にとても時間がかかったことを覚えています。毎回地域の皆さんがとても協力的だったので感謝しています」と受賞の喜びを話していました。

総務大臣表彰（統計功績）

村山昌司さん
（新宮第1・59歳）

永年にわたり、国勢調査業務に従事した功績で、村山昌司さんが総務大臣表彰に輝きました。

村山さんは、国勢調査、農林業センサス、事業所・企業統計調査、商業統計調査、工業統計調査など10数種類の統計調査に従事し、特に国勢調査は、昭和50年から連続7回にわたって調査員を務めました。地域での信望が厚く、調査内容が確実で書類整理なども優秀であったことなどが評価されました。

「7回もしたっけかな（笑）。ムラや家族の協力でやってこられたんです。調査員はお願いする立場。とにかく『怒らない・強制しない』ことを基本にしてきた。そのときの業務を一生懸命やって、終わったら『全部忘れる』こと。これが続ける秘けつだの」と、村山さんは笑いながら語りました。

総務大臣表彰（統計功績）

山岸丈孔さん
（片桐山・79歳）

永年にわたり、国勢調査業務に従事した功績で、山岸丈孔さんが総務大臣表彰に輝きました。

山岸さんは、昭和50年の国勢調査に従事以来、平成17年まで7回にわたって調査に尽力。農林業センサスにおいても昭和50年から従事するなど、統計調査員として正確かつ迅速に統計の作成にあたるとともに、統計調査員の資質の向上にも貢献しました。

また、地域においては、町議会議員や集落区長等の要職を歴任するなど、温厚な性格で信望も厚く、他の調査員の模範となっています。

受賞にあたり山岸さんは、「過疎化の進行により人口が減少していることが一番気になるところです。統計調査に関しては、自分も高齢ですが、元気なうちは調査員を続けたいです」と話していました。

総務大臣表彰（統計功績）

和田　潔さん
（中条旭町・68歳）

永年にわたり、国勢調査に従事した功績で、和田潔さんが総務大臣表彰に輝きました。

和田さんは昭和48年の工業統計調査に従事以来、中条地区や十日町地区などの人口密集区域で各種統計調査員として活躍しました。また、7回の国勢調査や、農林業センサス、事業所・企業統計調査などで地域の事情に精通した正確な調査を実践しました。

和田さんは、「勤めていたころは、夜にしか調査に行けなかったことや、週末や会社の昼休みに調査に行ったこともありました。合併後、自分が受け持つ調査区域が今まで担当したことのない地域にまで広がり大変になりましたが、これからも皆さんに協力してもらいながら統計業務を勤めていきたいと思います。」と話していました。

総務大臣表彰（統計功績）

髙橋庸子さん（袋町東・69歳）

永年にわたる統計調査従事への功労で、髙橋庸子さんが総務大臣表彰を受賞しました。

髙橋さんは、昭和53年に工業統計調査に従事して以来、国勢調査や事業所・企業統計調査など各種統計調査に携わり、迅速で正確な調査を実施してきました。中でも工業統計調査には21回、繊維流通統計調査には14回にもわたって携わり、調査の趣旨、重要性を理解し実践してきました。

髙橋さんは、「近所の親せきの人に誘われて始めて以来今年で28年になりました。労働力動態調査のように個人情報がからむ調査や冬期間の調査は大変でしたね。この仕事を通じて年代・職業を超え交友の輪が広がったことはよかったです。何より調査に協力してくださった皆さんに感謝しています」と受賞の喜びを話していました。

全国衛生組織連合会表彰

片桐久作さん（田川町１・79歳）

地区衛生活動に貢献した功績で、片桐久作さんが全国地区衛生組織連合会長表彰を受賞しました。

片桐さんは、平成元年４月から平成17年３月までの16年間、十日町市住みよい郷土推進協会推進委員として活動し、その間、協会副会長や魚沼支部の評議員を歴任しました。

環境パトロールや十日町クリーン作戦などの環境美化活動をとおして、地域での実践活動の指導者として活躍し、衛生思想の普及・啓発に努めました。時代も変わり、伝染病予防や害虫駆除が減る一方、ごみの不法投棄が年々増えつつある昨今で、一人ひとりのモラルが大切だと話す片桐さん。表彰にあたり「限りある資源を大切にし、緑豊かな郷土を未来永劫保つためにも環境美化を推進しなければなりません」と話していました。

全国社会教育委員連合表彰

庭野雅弘さん（田中町本通り・72歳）

永年にわたる社会教育活動功労で、庭野雅弘さんが㈳全国社会教育委員連合表彰を受賞しました。庭野さんは、昭和51年から通算14年間にわたり市の社会教育委員を務め、現在も在任しています。また、市はもとより、中越地区や新潟県域で長年にわたってスポーツ活動の普及・進展に関わり、社会教育活動の充実に向け、積極的な指導と助言に務めてきました。

庭野さんは、「小さいころ病弱だったことがスポーツへの道を歩むきっかけになり、それが社会教育委員活動につながりました。これまで陸上競技場や情報館など社会教育施設建設のときにいつも関わってこれたことはうれしく思っています。いっしょにやってきた仲間と家族の協力と理解があったからこそと感謝しています」と受賞の喜びを話しました。

県知事表彰（歯科保健事業功労）

東　祐義さん（本町６・65歳）

永年にわたり、歯科保健事業に従事した功績で、東祐義さんが県知事表彰に輝きました。

東さんは、昭和49年から県立松代病院の歯科医師として地域歯科保健事業に携わり、昭和55年には、まだ歯科医院の少なかった十日町市に歯科診療所を開業しました。以来、一般診療のかたわら、幼児の健康審査事業に携わり、むし歯予防に努めるとともに、幼稚園・保育所の嘱託医、小学校の学校歯科医として集団治療にも積極的に取り組んだ実績が高く評価されました。

東さんは、「別に特別なことをしたわけじゃありません。『治療より予防』『歯磨き習慣が一生を助ける』をモットーに歯科医師として当たり前のことをしてきただけ。これからも、患者さんの立場に立った診療を続けます」と語りました。

県知事表彰（衛生組織活動功労）

村山　眞さん（土市第３・64歳）

永年にわたる地域の衛生組織活動に対する功労で、村山眞さんが県知事表彰を受賞しました。

村山さんは、昭和60年に新潟県住みよい郷土建設協会十日町分会（現・十日町市環境衛生推進協議会十日町分会）に入会以来、現在まで、環境パトロールやごみ持ち帰り運動などの環境衛生活動に取組んでいます。その間、県の地区衛生組織連合会中魚十日町支部評議員や市の環境衛生推進協議会十日町分会の副分会長を歴任しました。

村山さんは、「21年環境衛生活動をやってこれたのは、自分の住んでいるところをきれいにしたいという思いがあったからです。昔と違い、今はごみがリサイクルによって資源になる時代なので、今まで以上に行政と協力して活動を続けていきたい」と話しました。

県知事表彰（統計調査功労）

金澤誠一さん（太田島第１・70歳）

永年にわたり統計調査業務に従事した功績で、金沢誠一さんが県知事表彰を受賞しました。

金沢さんは、昭和50年の国勢調査に調査員として従事して以来、豊富な調査経験をもとに各種統計調査に携わってきました。また、報告期限を励行するなど他の調査員の模範となるとともに、調査の重要性をよく理解し正確な調査を実践してきました。また、現在も地区の民生委員児童委員を務めるとともに社会福祉の増進に寄与するなど活躍は多岐にわたります。

受賞にあたり金沢さんは、「広い地域で大変なこともありますが、足しげく回ることで、地域をより知ることができます。統計調査は社会にとって大切な調査です。皆さんの協力がなによりです」と受賞の喜びを話していました。

十日町市文化協会連合会文化賞

第12回十日町市文化協会連合会（山内正胤会長）の文化祭が11月３日（文化の日）にクロス10で開催され、地域の芸術・文化の振興に貢献した１団体・個人７人が表彰されました。文化賞の受賞者と主な功績は次のとおりです。

◆**大久保　健**さん（五軒新田　91歳）

永年にわたり、地域俳壇の指導者・選者として活躍し俳句文芸の普及と発展に尽力

◆**庭野栄蔵**さん（赤倉　78歳）

永年にわたり、赤倉神楽の指導者として後継者の育成と神楽の保存・伝承に尽力

◆**中條　誠**さん（川原町　65歳）

永年にわたり、写真芸術の指導者として地域の写真界の発展と向上に尽力

◆**十日町おやこ劇場**

永年にわたり、各種の演劇活動等を通して幼児・保護者の情操教育の向上に寄与

◆**水品彦平**さん（山野田　64歳）

随筆「ぬくもりの原点」で日本随筆家協会賞を受賞した功績をたたえ、今後の随筆活動に期待

◆**関口雅文**さん（東京都大田区　36歳）

第82回白日展において文部科学大臣賞を受賞した功績をたたえ、今後の制作活動に期待

◆**田村久策**さん（昭和町１　77歳）

十日町市文化協会連合会の設立に貢献し、以来同会の顧問として地域文化の向上と発展に寄与

◆**宮内　孝**さん（七軒町　故人）

十日町市文化協会連合会の設立に貢献し、以来同会の監事として地域文化の向上と発展に寄与

新たなまちづくりに向けて

～地域情報化推進の検討状況（中間報告）～

市では合併後の新たなまちづくりを進めるため、市内のすべての人が高速インターネットやＣＡＴＶ、音声告知放送のサービスを受けられるように、通信と放送の基盤整備を推進しています。

今年７月14日には市民ほか40人で構成する十日町市情報化推進会議（澤村明委員長）を設置し、先月末までに９回の会議を開催して、通信と放送の基盤整備について様々な観点から検討・協議し意見集約を行ってきました。その結果、おおむね事業の概要が固まりましたのでお知らせします。

事業の内容（サービス）

推進会議では、主にＣＡＴＶの必要性、音声告知端末機の機能について意見集約が行われました。ＣＡＴＶの必要性については採決により、賛成23、反対５、白票７でＣＡＴＶを必要とする意見に集約されました。また、音声告知端末機の機能については、４回の検討を経て市の方針（片方向機能）を説明し、推進会議で確認されました。

告知端末機の機能を片方向としたことで、昨年度から説明していた「地域内無料電話」はできなくなりましたが、光ケーブルの基盤が整備されることでプロバイダーによるＩＰ電話（インターネットへの加入が必須・全国一律通話料）の利用は可能です。

①ＣＡＴＶ（放送）サービス

ＣＡＴＶにより行われるサービスは、地上波（ＮＨＫ２局及び民放４局）の再送信、自主放送（地域独自のチャンネル）及び多チャンネル放送です。光ケーブルを使った有線放送なので、従来の家庭用アンテナや共同受信施設は必要なくなります。

市では、ＣＡＴＶサービスの中で特に自主放送に力を入れる必要があると考えています。自主放送を通して行政の様々な情報を提供するのはもちろんですが、身近な出来事や話題・各種イベント・生活情報などを提供することで、合併後の一体感の醸成や協働のまちづくりに大きな効果が生まれることを期待しています。

＊ＣＡＴＶサービスは加入を希望する世帯が対象となります。利用料金などは現在検討中。

②高速インターネットサービス

都市部と比較して市内のインターネット環境（通信速度）は、市街地を除き決して良いとは言えません。

そこで、今回市が市内全域に光ケーブルを敷設することで、市内のどこに住んでいても都市部と変わらないインターネット環境を整備します。通信速度は、国が方針を出している次世代双方向ブロードバンド（30メガ）を確保します。これにより、市内の産業振興などに大きな効果があるものと考えています。

＊高速インターネットサービスは加入を希望する世帯が対象となります。利用料金などは現在検討中。

③音声告知放送サービス

音声告知放送は、告知端末機を使って災害や各種行政情報、地域限定のコミュニティ情報などを音声で放送するサービスです。

市では、最近、中越大震災や度重なる豪雪被害などを体験しました。このことから、今回、災害情報や防災情報などを瞬時に全世帯に音声により伝えるためのシステムとして、片方向機能の告知端末機を全世帯に配置（貸与）する計画です。

以上３つのサービスのほか、全市に張り巡らす光ケーブルの余剰線を使い、携帯電話不感地域の解消も行う予定です。

運営の形態（通信・放送一体の第三セクター）

市の情報化推進に対しては、以前から複数の通信事業者やＣＡＴＶ事業者等が運営に協力したいという姿勢を見せていました。通信や放送の技術は、日進月歩と言われるほど日々進化しています。このような状況を踏まえ、運営には民間活力を導入することとしました。

現在進行中の企画提案会（詳細はＰ16光ケーブルネットワークで地域が変わる参照）で選定された事業者と市で第三セクターを設立し、ＣＡＴＶや高速インターネットなど通信と放送を一体運営します。

通信と放送を分けて運営することもできますが、「障害発生時の責任分解が不明確になる」「サービス窓口が一本化できない」などの点から一体経営を選択しました。

基盤（市が整備します）

民間は、採算の取れない地域に基盤（光ケーブル網）を整備しサービス提供することはありません。そこで、今回の事業は市が国の補助などを受け基盤を整備し、整備した基盤を民間（通信・放送一体の第三セクター）にＩＲＵ（すべての関係者の合意がない限り、破棄されたり終了されたりしない使用権）契約により貸し出すという手法をとります。

◆最大で約48億円と試算

昨年試算した事業費約60億円（地域イントラ分を含めると72億円）と比較すると、告知端末機を片方向機能にしたことなどから大幅に減額されました。さらに、企画提案会において民間活力を導入することで、この額はさらに減額されることが見込まれます。

◆合併特例債などを充当

この事業を推進するための財源は、総務省からの交付金と合併特例債を予定しています。総務省の交付金は、対象となる事業費の３分の１が交付されます。また、合併特例債は全体事業費から交付金や対象外経費などを差し引いた額の95％を充当でき、償還時に元利償還金の70％が地方交付税で措置される起債です。したがって、概ね７割程度の補助を受けて事業を行うことができるものと考えています。

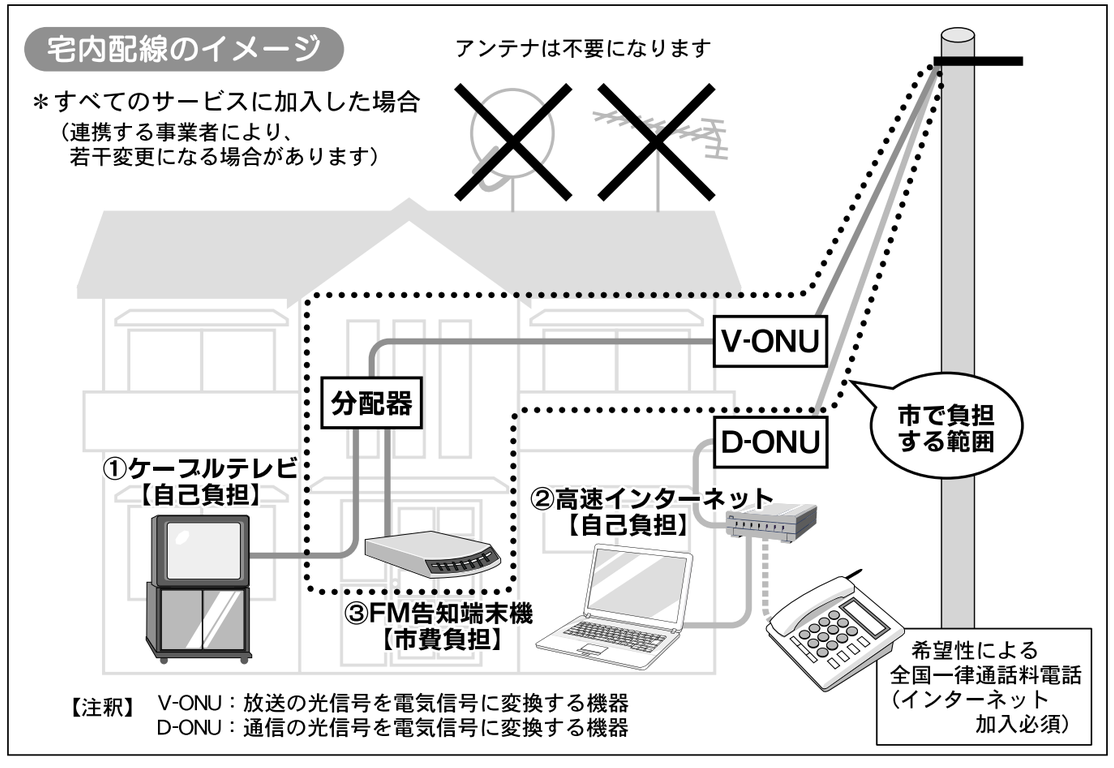
■問合せ　総合政策課情報政策係
☎757―3111（内線233）

事業推進スケジュール（予定）

高速情報通信網整備は、十日町市推進会議での意見集約を経て、概ね次のスケジュールで進める予定です。

- ◇アクションプラン（実施計画書）完成（H19年３月末）
- ◇市民説明会（全集落対象・加入促進）（H19年５月以降）
- ◇工事着手（H19年秋以降）
- ◇サービス開始（H20年度・工事完了地区から随時）
- ◇工事完了（H22年度）

※アナログ放送終了（H23年７月）



まつだいステーション

松代支所
☎597-2220

子育てみんなで考えよう・話そう・楽しもう
松代家庭教育フォーラム 2006

11月5日(日)に松代中学校で、松代家庭教育フォーラムが開催されました。これは次代の松代地域を担う子どもたちの子育てについて保護者や教職員、地域住民がいっしょになって考えようと松代公民館が主催しました。会場には約100人が集まり、子育ての現状や家庭・地域の教育のあり方について意見を交わしました。

フォーラムは2部構成で行われ、始めに「子どもの虐待防止ネットにいがた」代表の草間真由美さんが『子どもの力を信じて』と題して基調講演しました。講演では、電話相談「チャイルドライン」に多く寄せられる学校や友達、性に関する子どもたちからの相談を例に、現代の子どもたちが抱える悩みや、子どもへの虐待の背景などが語られました。また草間さんは、自らの子が障害を克服しながら育ってきた過程を話し、子どもには立ち直る力がある、子どもの力を信じて見守って欲しいと話しました。

第2部では4つの分科会に分かれて、それぞれのテーマで意見交換が行われました。「お父さん！あなたの出番」がテーマの分科会では、父親は子どもにたくましく生きる生き方を教えなければならないという発言があったり、父親自らがけじめのある規律性を持たなければならないなどの指摘があったりと、活発な意見が交わされました。

草間真由美さんの講演

話せないこと話してみよう。
毎週水曜日　午後3時～9時
子ども専用電話
チャイルドラインにいがた
☎025(224)5555
http://clniigata.seesaa.net/

松代の自然
オニノヤガラ

フラビ採りに山を登ると異様な植物によく出くわします。その一つ、オニノヤガラが私の前に姿を現しました。この植物は鬼が使いそうな矢に似ていることから『鬼の矢柄』と呼ばれるようになりました。ラン科の無葉蘭の仲間で、同じ仲間のツチアケビやショウキランなども松代周辺でときどき発見されて、話題をさらいます。オニノヤガラはナラタケの菌糸から栄養分をもらって育つため、その葉は退化し、鱗片のような形を残すぐらいです。

また、その根茎はジャガイモのような形で、浅いので簡単に抜けます。その形が泥棒の忍び足似ていることから「泥棒の足」などとの方言が各地に伝えられています。食べられるようですがおいしいものではないようです。

こんな奇妙な植物がたまに見つかるという松代の自然はやはり捨てたものではなく楽しいものです。大いに歩こうでは！

（文とカット・写真　高橋八十八）

オニノヤガラ

山平地区に担架を配備

10月22日(日)、市の防災訓練に合わせて仙納集落でも防災訓練が行われました。9時のサイレンに合わせ中越大震災で犠牲になった人への黙とうの後、区長の本柳彰造さんによる地震のときの心構えなどの話がありました。その中で、仙納集落を含む山平地区7集落すべてに自主防災組織が立ち上げられ、各集落に市から補助金を受け担架を配備した報告がありました。その後、さっそく担架を使い負傷者を搬送する訓練が行われました。

10月23日(月)には名平集落で屋外に発電機を設置し、炊飯器を使っての炊出し訓練が行われるなど、各集落でさまざまな訓練が実施されました。

負傷者を担架で搬送する訓練

なかさとファンクラブ通信

中里支所
☎763-3111

～思い出の味 新しい味～ 第2回 なかさと食の文化祭

11月3日（文化の日）、中里保健センターで「第2回なかさと食の文化祭」（主催なかさと夢ネット）が行われました。約250人が訪れた会場には65人の応募者による121品の料理がところ狭しと並べられました。

「食の文化祭」は、中里地域の各家庭の料理を持ち寄り、「食」にまつわる会話を楽しもうと平成17年から開催されているものです。今回、文化祭に出品された料理は、山菜やきのこなどの地元の食材を使い母から子へ代々受け継がれた伝統の料理や、素朴でどこか懐かしい家庭のあたたかさを感じさせる料理などが多く寄せられました。

会場を訪れた人にはハシと取り皿が配られ、料理に舌鼓を打ちながら、思い思いに味付けや歯ごたえなど感想を語り合いました。中には独自の発想を加えた料理もあり、思わず「へぇ～こんな調理方法もあるんだ」驚く人もいました。

会場に並べられた料理にはそれぞれ料理カードが添えられていました。材料や作り方だけでなく、出品した人の料理にまつわる思い出なども書かれており、訪れた人たちは熱心にカードを読んでいました。

出品作に舌鼓を打つ参加者

秋の大収穫祭「直売所開催」

10月28日(土)、ラピーヌ雪街道で清津峡地区営農委員会による直売市が、翌29日(日)には、ミオンなかさとで貝野地区営農委員会による直売市が開催されました。秋晴れとなった週末、それぞれの直売所は大勢の人でにぎわいました。

ラピーヌで新鮮な野菜を購入

ミオンでは新米や鉢植などを販売

ゆくら妻有収穫祭＆新米フェア

10月29日(日)、ゆくら妻有駐車場でゆくら妻有収穫祭と新米フェアが開催され、約500人が訪れました。ゆくら妻有収穫祭では地元の野菜販売、錦鯉の直売やもちつき大会などが行われました。会場に作られた特設ステージでは中里芸能協会によるよさこいソーランも行われ、会場を訪れた人を楽しませていました。同時開催の新米フェアでは中里地域でとれた新米コシヒカリを新釜（まさがま）・ヌカ釜などでたき、味比べを行うコーナーやひとすくいの米の重さを当てるクイズなどが行われ、子どもたちはカップですくう米の重さに一喜一憂していました。

新米の重さを当てよう！

吉田中学校３年Ａ組 ⑰

学校を動かしていくために、３年生が動く姿を後輩たちに見せようと掲げた学年スローガンは「動く３年。」。スローガンを意識して、いろいろな行事に取り組んできました。中でも今年始めての開催となった生徒全員参加の文化祭での演劇は、３年生がリーダーシップを取って、下級生をまとめ見事大成功。大きな自信につながりました。

林沙也加さん――明るくやさしく思いやりがあるクラスです。合唱コンクールのときはエンジンがかかるのが遅くて心配しましたが、だんだんまとまってきて、終わったときには達成感でいっぱいでした。３年生になってからはまとめる力もついてきて、初めて取組んだ演劇では、下級生を引っ張り力を合わせた結果、成功につながったと思います。

小林麻稚先生――今年の文化祭での演劇では、最高学年として積極的に取組み、満足感・達成感・充実感を味わえたと思います。おとなしく落ち着いている学年ですが、内に秘めたパワーがあります。これからの進路に向け、その力を発揮してほしいと思います。このクラスで良かったと思えるよう、残りの４か月を有意義に過ごしてほしいです。

光ケーブルネットワークで地域が変わる VOL.12

◆問合せ◆
総合政策課
情報政策係
☎757-3111
（内線233）

■情報化推進にあたり企画提案募集を開始

11月6日(月)、第3回プロポーザルコンペ（企画提案会）評価委員会が開催され、高速情報通信網整備事業における運営事業企画提案書募集要項が審議決定されました。これを受け、市では事業者からの企画提案を募集する作業を開始しました。

今回のコンペは、市が整備する情報基盤を活用し、通信と放送のサービスを提供する事業者を選定するために実施するものです。今回指名された事業者は、通信事業、ＣＡＴＶ事業などを運営する企業10社です。

◇提案を求める項目

今回市が求めている提案の項目（募集要項・企画提案書の内容から抜粋）は概ね次のとおりです。

＊会社の概要（資本金、事業内容、財務諸表ほか）
＊地域情報化によるまちづくりに対する基本姿勢
＊事業実績（地方公共団体の情報化推進に対する実績）
＊ＩＲＵ契約に対する考え方
＊第三セクター設置の考え方（設置時期・組織構成・資本金の総額・市の出資割合ほか）
＊平成20年度を初年度とした向こう10年間の事業収支予測
＊通信系（高速インターネット）のサービス内容・利用料金
＊放送系（ＣＡＴＶ）のサービス内容・利用料金
＊告知端末機によるサービス
＊保守・監視体制（通常時の管理・障害時における対応ほか）
＊安全対策（個人情報保護対策に対する基本姿勢ほか）
＊事業費の試算（全体システム構成、幹線ルート、センター機器ほか）
＊地元企業との連携・活用策
＊余剰心線（光ケーブル）を活用した携帯電話不感地域解消のための手法
＊計画の目的及び趣旨に沿った自由提案

※次回は告知端末機の使い勝手などについてお知らせします。

お～い！昔〈十七〉

「鉢の石仏」の巻（鉢）

鉢集落の奥まった山腹に杉の大木がうっそうと茂る林があり、その中に２００体ほどの石仏が祀られています。

今からずーっと昔、２５０年あまり前のこと。大阪の陰涼寺という禅寺からはるばる越後の国へ仏の教えを説きに来た明屋有照禅師というえらい坊さんがありました。

滞在していた土市の観泉院を発って旅に出た晩のことです。星のような光が西の空から流れるように降りてきました。光は途中で止まったかと思うとまた動き出してだんだん大きくなり、満月のような丸い光となってゆっくりと降りてきました。禅師は、「おお、あれは天灯！あの場所こそ仏法を広めるための霊地に違いない」と光の降りて行く先を訪ねて行きました。天灯は鉢のムラはずれで地上に触れた瞬間、急に大きく明るく輝きました。禅師が近づくとそこには不思議な形をした石が地面から突き出ていました。

村人に聞いたところ、「こら、昔えらい坊さんが座禅をしたまま石になったもんで、『石仏』と呼んでらんだ」と答えました。

「ここそわしが永年求めてきた仏法の聖地。わしを導いたあの天灯は天の仏。地からわき出るこの石は地の仏。この地で仏法を広めよという天の啓示に違いない。よし、ここを永遠の仏法の道場としよう」。禅師はそう決意すると、村人の協力を得ながら庵を建て、山を崩し地を掘り、十三仏を安置して立派な霊場を整えました。

禅師が座禅を組んでお経を唱えていることを聞いて、近郷近在からお参りする人が後を断たず、病める心も苦しい病気もここでいやして帰りました。

禅師が亡くなった後も、立派な坊さんが何代も石仏に仕え、十六羅漢や百庚申など多くの石塔も整備されて石仏の周りはいっそう霊場の雰囲気を高めていきました。いつの頃からか、石仏の粉が万病に効くというううわさが広まり、参拝者が少しずつ表面を削ったため、石仏は今のような姿になったといいます。

不思議な天灯は、今でも降りることがある…とか。

なじょも、なじょも

その17

市長 田口直人

現場から学び続けます

合併から1年半が過ぎ、たび重なった災害からの復旧も、おかげさまで目途が立ってきました。市民の皆さんからは、難儀の連続の中、本当に頑張っていただきました。心から感謝しています。

新市のまちづくりに向け、これでようやく本来のスタートラインに立つことができたと思います。

災害復旧対策のため、財政的な合併効果も吹き飛んでしまいましたが、現状を理解いただきながら「自立」のために「協働」の心で一歩一歩確実に歩みたいと考えています。ご協力をお願いします。

私ほか市の関係者が直接地域に出かけて市民の皆さんと直接対話する「まち・むらトーク」も、11月8日(水)の下条地区を最後に今年度分12回を終了させていただきました。各地区振興会や地域協議会の皆さんからは、多方面からお世話になりました。ありがとうございました。

今の行政課題や地域がかかえている諸問題について、皆さんとひざを交えての意見交換をすることができ、私にとりましても本当に勉強になりました。夜という時間の制約もあり、すべてのことについて突っ込んだ話し合いをするわけにはまいりませんでしたが、市民の皆さんとの情報の共有がとても大切だということを、改めて認識しました。

ここ1年半を振り返り、強く感じることはやはり「本質は現場にあり」です。何ごとも現地に足を運び、生の声を聞いてみないと分かりません。アイデアも解決策もそこから生まれます。夢の実現に向けて、これからもいろいろなグループや個人とのトークを積極的に積み上げていきたいと思っています。

皆さんの声かけをお待ちしています。

妻有で再会　ベネズエラ音楽祭

11月12日㈰、千手中央コミュニティセンターで「ベネズエラ音楽祭」（妻有ベネズエラ文化交流推進委員会主催／ベネズエラ・ボリバル共和国大使館ほか後援）が開催されました。これは、全国をコンサートツアーでまわる「2006年ベネズエラ文化週間」の一環で行われたもので、平成13年に開催された「地球環境米米フォーラム in 越後妻有」に各国の大使が招かれたことが縁となっています。当日は石川成幸在日ベネズエラ大使も会場を訪れ、ベネズエラと越後妻有地域との今後の交流に期待を寄せる思いを述べました。演奏は、ベネズエラの代表的な歌手と弦楽四重奏のグループが明るく軽快なラテンミュージックを披露し、会場を埋めた250人の観客を魅了しました。

まちの話題 TOWN TOPICS

このコーナーは、まちの話題や活動などを紹介しています。情報がありましたら、総務課広報広聴係（☎757―3111内線213）へ、お気軽にお寄せください。

人権について考えてみよう

11月9日㈭、市民会館を会場に、人権啓発講演会（十日町市人権教育総合推進会議主催）が開催されました。講師に教育カウンセラーの富田富士也氏を迎え、身ぶり手ぶりのパフォーマンスと笑いを混じえながら約2時間、「人に、子どもに、光りあれ」をテーマに、人権について熱く語りました。訪れた市内の男性は、「演劇を見ているような講師のパフォーマンスにひき込まれました。人が『還る家』は心で〝聴く〟場所であることを学びました」と話していました。

高橋喜平さんの全著作を市に寄贈

11月３日㈮、博物館で雪まつりの創始者である、故高橋喜平さんの全著作の贈呈式が行われ、約50人が出席しました。今年２月に95才で逝去された高橋喜平さんは、昭和９年から約70年間文筆活動を続けられ、雪に関する作品を数多く残しています。式典では、高橋喜平さんの長男である高橋雪人さんなどが所蔵する全著作66点の目録が田口市長に手渡されました。著作は現在、博物館ロビーに展示されています。高橋雪人さんは「晩年、父は十日町が本当の故郷と思っていたようです。そのような場所に父の著作が全て揃うことは、父にとって大変うれしいことだと思います」と話しました。

鮮やか技あり　やきものワークショップ

まつだい農舞台で開催されている秋の企画展「日本の食器10人展」は、鈴木五郎さんや原憲次さんなど陶芸界を代表する作家の作品が多数展示されているとあって、人気を博しています。なかでも期間中、催される「秋の茶会」など関連イベントは、作品を見ること以上に実際に使って触れられるだけに、多くの陶芸ファンを魅了しています。また、11月５日㈰に行われた、ロクロを使ってのやきものワークショップには市内外から50人が参加しました。陶芸家の原憲次さんと吉武和美さんが、鮮やかな手さばきでロクロをひき、次々と作品を仕上げると、鑑賞者は「まるで手品のようです。土が芸術に変わるその瞬間を目の当たりにしたようです」と興奮気味に話していました。

地球の肺アマゾンを守ろう

11月12日㈰、ユーモールで「アマゾンに越後の森をつくる会」主催の講演会が開催されました。ブラジル在住でアマゾニア森林保護植林協会会長の長坂優さんは、入植後41年間の苦難の体験談、アマゾンの自然環境の重要さや日本の青少年を受け入れての健全育成支援の取り組みなどを熱く語り、参加者は熱心に聴き入っていました。「アマゾンに越後の森をつくる会」では、長坂優さんの運動に賛同し「地球人一人一本植林運動」を推進しています。

松之山から　ふるさとの息吹2006

教育委員会の主催による「ふるさとの息吹2006」が、11月４日㈯市民会館で開催されました。２回目の今回は松之山地域で活動している２団体が出演。太鼓好きな若い仲間で結成した「鼓夢の会」による力強い太鼓の演奏を皮切りに、「松之山上川手歌舞伎保存会」による「義経千本桜　釣瓶鮓（つるべずし）屋の場」が披露されました。

同保存会は、古くは江戸時代から伝わる台本を元に保存活動を続け、現在は市の無形文化財に指定されています。迫力ある太鼓の響きと、普段見る機会の少ない地域役者自らの企画・演出と名演技に、観客は終始見入っていました。

長寿命住宅で温暖化防止

11月10日㈮、２００年前の民家を高気密高断熱補強して移築したぶなの木学舎（上野）で小規模講演会兼見学会「豪雪地帯の長寿命住宅」が開催されました。これは、既存の住宅を高品質で長寿命の家にすることで地球温暖化防止に役立てようと、住まいと環境東北フォーラムが主催したもので、豪雪地帯８が所（７県）で開催されています。石川善美東北工業大学教授ほか４人の講師による講議や体験談に、約40人の参加者は熱心に聴き入っていました。

両面から学ぶ日本の歴史

11月5日㈰、エコマールで㈳十日町青年会議所による中学生向けセミナー「この日本（くに）のあゆみ」が開催され約20人が集まりました。「古き良き日本のこころ」を見直そうという目的で行われた今回のセミナーでは、近隣諸国とのかかわりの中で近現代史を紹介。ビデオ、スライド上映やグループ討論などを行いました。参加した中学生は、「日本には良い所も悪い所もあり、両方を知らなくてはいけないと思いました」と話しました。

六箇小学校　炭焼きプロジェクト

11月10日㈮、六箇小学校（池田清治校長）で「炭焼きプロジェクト～窯づくり・火入れ～」が行われました。昭和30年代に地域で盛んに行われていた炭焼きを子どもたちに伝えようと、12年前に校地の一角に炭焼き窯を作りました。しかし、おととしの中越地震で壊れたため、今年再建にチャレンジしました。全校児童21人は泥にまみれながら、間伐材で組み立てられた炭焼き小屋の中に作られた亀の甲羅型した窯の屋根に土を盛る作業を行いました。指導にあたった地元振興会副会長の俵山正亥さん（二ツ屋・71歳）は、「この窯でできた炭で自然の持つ温もりを感じてほしいです」と子どもたちに温かいまなざしを注いでいました。児童たちはできた炭でもちを焼いて食べることを心待ちにしていました。

会場をまちなかに移し多彩に展開！
第11回かわにし自満祭

第11回かわにし自満祭が11月３日（文化の日）～５日㈰の３日間に渡って開催されました。

今回は、全ての催しを千手中央コミュニティセンター及び駐車場を会場に開催。３日はゆーゆーコンサート、４日はフリーマーケットやかわにし夢きゃらばんによる演劇、５日には屋台村や錦鯉品評会、民謡とおどりの祭典、大なわとび大会などが行われました。

また、４日・５日には同会場で川西地域の文化祭も開催され、大勢の人出でにぎわいました。

スーパー素人劇団かわにし夢きゃらばんによる演劇「妻有姫（おシンデレラ）」の１シーン。迫真の演技で会場を魅了しました。

42組が日ごろの成果を披露した「民謡とおどりの祭典」

大正琴、オカリナ、フルートの演奏、コーラスなどが行われた「ゆーゆーコンサート」

「光の館」新日本様式100選に選定

Jブランドとして国内外に発信

世界に通用する新しい日本ブランドの定着を目指して創設された「新日本様式１００選」に、第１回大地の芸術祭川西ステージ作品の「光の館」（ジェームズ・タレル作）が選ばれました。

日本の伝統文化、素材、精神をベースに、先端技術が駆使されていることなどを基準として、創設初年度の今回はプラズマテレビ・ビエラ、プリオス、ニンテンドーＤＳ、カップヌードル、使い捨てカイロ、ウォシュレットなどの製品や日本橋再生計画など合わせて53点が選定されました。

新日本様式１００選は、今年１月に経済産業省を中心に官民共同で設立された、新日本様式協議会（理事長・中村邦夫松下電器産業会長）が募集し、日用品や家電、乗用車など全国から２５４点の応募がありました。日本製であることや一般の人が幅広く購入・利用・体験・アクセスが可能であることを選定対象に、日本の国際競争力を高め産業振興に役立ち、国内外に発信した際に一目で「新日本様式」が理解できるものという観点も重要視され、10月30日に53点が選ばれました。

現在の生活に適合し、伝統やこだわり、発想など日本ならではの特徴を生かしながら、今後国内外に積極的に情報発信されていきます。

新日本様式とは…

我が国の伝統的なデザインや機能、コンテンツ（情報内容）と高度な技術力や商品力とを融合させ、現代社会に潤いと輝きを与える「日本らしさ」を追求し、新しい日本様式を確立しようというものです。そこには「日本人の自然観」があり、それをとりまく「たくみ」「ふるまい」「もてなし」の三つの心を基本思想にしています。

宿泊施設である光の館（House of Light）は、瞑想のためのゲストハウスとして構想されました。光のアーティスト、ジェームズ・タレルさんは、伝統的な日本家屋の様式と自らの光の作品を融合させることを着想しました。

管理運営を務める㈱まちづくり川西の高野和葉さん（室島・28歳）と江口優美さん（山野田・24歳）は、「日没と夜明けに１時間ほど屋根を開け、空の移り変わりをご覧いただくライトプログラムは見どころの一つです。新日本様式100選の選定を機に、今後も越後妻有の豊かな自然の中で、日本情緒に浸りながら、さまざまな光と向き合う時間を過ごしてほしいです」と選定に胸躍らせていました。

選定された新日本様式100選には「J」マークが付与されました

税金関係の各種説明会を実施します

	日	時	対象者	会場
青色申告決算説明会	12月4日(月)	9:30～11:30	川西地域農業所得者	千手中央コミュニティセンター
		13:30～15:30	十日町地域農業所得者	ＪＡ十日町本店
	12月5日(火)	13:30～15:00	松代・松之山地域営庶業所得者	松代ふるさと会館
	12月6日(水)	9:30～11:30	松代・松之山地域農業所得者	松代総合センター
		13:30～15:30	中里地域農業所得者	中里総合センター
	12月7日(木)	10:00～11:30	十日町地域営庶業所得者	市民会館
		13:30～15:00		
農業所得収支計算説明会	12月13日(水)	9:30～11:00	下条地区農業所得者	下条地区公民館
		13:30～15:00	川西地域農業所得者	千手中央コミュニティセンター
		15:30～17:00		
	12月14日(木)	9:30～11:00	吉田地区農業所得者	吉田地区公民館
		13:30～15:00	松代地域農業所得者	松代総合センター
		15:30～17:00		
	12月15日(金)	9:30～11:00	中里地域農業所得者	中里総合センター
		13:30～15:00	松之山地域農業所得者	松之山支所
		15:30～17:00		
	12月19日(火)	9:30～11:00	水沢地区農業所得者	水沢地区公民館
		13:30～15:00	十日町地域農業所得者（下条・吉田・水沢地区を除く）	ＪＡ十日町本店
		15:30～17:00		

※農業所得収支計算説明会の対象者には、個別に案内します。

問合せ　十日町税務署 ☎752-3181　市役所税務課 ☎757-3111

中学生の税に関する作文・標語

十日町納税貯蓄組合連合会、十日町税務署、十日町市租税教育推進協議会では、共催して中学生を対象に税に関する作文・標語を募集しました。入選者を紹介します。（敬称略）

【作文の部】

●全国納税貯蓄組合連合会優秀賞
●十日町納税貯蓄組合連合会会長賞
須藤智美（川西中3年）
「税金について考えよう」
●新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞
●十日町税務署長賞
島田亮太朗（南中3年）
「税金の大切さ」
●十日町税務署長賞
鈴木貴也（松代中3年）
「税という名のパートナー」
●関東信越税理士会十日町支部長賞
金子友佳（十日町中3年）
「税を考え税を知る」
●十日町市租税教育推進協議会長賞
最優秀賞
藤木奈央（中条中3年）
「税と向き合う」
優秀賞
矢口優希（十日町中3年）、和田祐太（十日町中3年）、水落未来（中条中3年）、中山未沙樹（南中3年）、曽根美穂（南中3年）、根津彩加（水沢中3年）、高野由布（水沢中3年）、田口詩織（川西中3年）、高橋皆美（川西中3年）、菅井彩香（松代中3年）

【標語の部】

●関東信越国税局長賞優秀
樋口晃平（水沢中1年）
「未来へと
つなぐ　支える　税ある暮らし」
●関東信越国税局長賞佳作
佐藤文音（中条中3年）
●十日町市租税教育推進協議会長賞
最優秀賞
野上侑奈（吉田中2年）
「納税で　明るい未来　豊かな社会」
優秀賞
高橋美鈴（十日町中3年）、篠原裕加（十日町中3年）、関谷友樹（十日町中3年）、大熊ゆかり（中条中3年）、西野春奈（中条中3年）、島田亮太朗（南中3年）、児玉千明（南中3年）、青木祥太（南中2年）、野上明穂（吉田中3年）、近藤智恵実（下条中3年）、阿部史明（下条中3年）、福嶋彰子（水沢中3年）、阿部理（水沢中1年）、関口優輔（川西中2年）、樋口真央（川西中2年）、星名太一（川西中1年）、石田えり（松代中1年）、小堺彩佳（松代中1年）、南雲美穂（松之山中2年）、池田智也（松之山中1年）

GUIDE

お知らせ・ガイド
市役所 TEL 757-3111

催し

応急手当講習会 AEDを使用した普通救命講習会

応急手当の基礎が習得できる普通救命講習会」です。●**日時**＝12月3日(日)午前9時～正午●**会場**＝十日町地域消防本部●**定員**＝先着30人●**対象**＝中学1年生以上●**受講料**＝無料●**内容**＝AEDを用いた心肺蘇生●**申込み・問合せ**＝十日町地域消防本部警防課救急係（☎757―0119）

「森の学校」キョロロ里山学会 お米の付加価値と生き物の多様性

産地米のブランド化に向けた講演会とシンポジウムを開催します。●**日時**＝12月2日(土)午後2時～5時●**会場**＝「森の学校」キョロロ●**入場料**＝無料●**内容**＝講演①「ただの虫を無視しない農業」桐谷圭治氏（日本応用動物昆虫学会）②「米、市場、状況からみたこれからの地域ビジョン」鈴木秀之氏（米・食味鑑定士協会）●**問合せ**＝「森の学校」キョロロ（☎595―8311）

第16回十日町市芸術協会 チャリティ展覧会

会員の作品を展示、販売します。●**日時**＝12月9日(土)午前9時～午後8時・10日(日)午前9時～午後5時●**会場**＝中央公民館●**問合せ**＝中央公民館（☎757―5011）

「ファミリーコンサート」

●**日時**＝12月10日(日)午後3時30分～●**会場**＝千手中央コミュニティセンター「千年の森ホール」●**入場料**＝シングル券：3歳～小学生300円・中学生以上500円、ファミリー券：1、000円（大人1人・小人2人）●**曲目**＝乙女の祈り、世界に一つだけの花、アニメメドレーほか●**チケット販売所**＝楽器のおぎの、中央公民館、情報館、千手中央コミュニティセンター●**問合せ**＝ファミリーコンサート実行委員会　澤潟（☎090―8011―4024）

クロス10しめ縄講習会

●**日時**＝12月10日(日)午前9時～午後3時●**会場**＝クロス10●**参加費**＝1、000円（材料費込み）●**定員**＝先着20人●**申込み・問合せ**＝クロス10（☎757―2323）

観光・体験交流 魚沼起業市場開催

三魚沼地域で地域活性化に取り組む人たちの特産品や観光メニューを紹介します。●**日時**＝12月12日(火)午前10時～午後3時●**会場**＝湯沢カルチャーセンター（湯沢町）●**参加費**＝無料●**問合せ**＝十日町地域振興局企画振興部地域振興課（☎757―5517）

第22回民謡舞踊大競演会 うたとおどりの祭典

●**日時**＝12月3日(日)午前9時～午後4時30分●**会場**＝クロス10●**入場料**＝1、300円（当日1、500円）●**入場券取扱い**＝クロス10、中央公民館●**問合せ**＝実行委員会事務局　池田（☎758―2644）

清津峡俳句会

晩秋の清津峡を詠みませんか。●**日時**＝12月8日(金)午後1時～●**会場**＝清津峡渓谷トンネル・清津館●**参加費**＝3、000円（記念写真、懇親会費込み）●**定員**＝先着20人●**申込み・問合せ**＝なかさと清津観光協会（☎763―3168）

キナーレ 健康・元気アップ教室

温泉を活用した健康づくり教室です。●**日時**＝12月4日(月)午前10時～午後2時30分●**会場**＝キナーレ●**参加費**＝1、000円●**定員**＝先着100人●**講師**＝高橋賢一氏・関口陽子氏●**申込み・問合せ**＝キナーレ（☎752―0117）

キナーレ運動教室

12月5日(火)～3月27日(火)までの毎週火曜日に、運動教室を行ないます。※12月26日、1月2日を除く●**会場**＝キナーレ●**参加費**＝500円（明石の湯入館料）●申込み・**問合せ**＝キナーレ（☎752―0117）

【健康ー青竹ビクス】
「青竹踏み」を取り入れた運動です。●**時間**＝午前11時～正午

【鍛えろ筋肉！ピラティス】
代謝の良い引き締まった身体を作るエクササイズです。●午後1時30分～2時30分

子ども博物館パート2 シメナワとハッチンチョウをつくろう！

友だちや家族を誘ってお正月に飾るシメナワ作りに挑戦してみませんか。●**日時**＝12月10日(日)午後1時～4時30分●**会場**＝博物館●**参加費**＝300円（材料費・おやつ代・保険料）●**定員**＝先着20人●**対象**＝小学校4年～6年生とその家族●**持ち物**＝①カッター②はさみ③定規④筆記用具⑤シメナワを入れる袋●**申込み・問合せ**＝12月5日(火)までに、申込書を博物館（☎757―5531）に提出

ニコライ・トカレフ ピアノリサイタル

●**日時**＝12月10日(日)午後2時～（開場1時30分）●**会場**＝市民会館●**入場料**＝一般・高校生3、000円、小・中学生2、500円（当日500円増）※未就学幼児入場不可・託児室あり●**プレイガイド**＝イトー楽器、楽器のオギノ、中央公民館、情報館、各

地区公民館●**問合せ**＝生涯学習課（☎757―5011）

十日町おやこ劇場 12月公演のお知らせ

●**入場料**＝入会金1家族1、000円＋年中児以上1人月額700円※会員制、当日入会可●**申込み・問合せ**＝加賀書院（☎752―2114）

「プレジャーBのクラウンコメディーサーカス」●**日時**＝12月2日(土)午後6時～7時20分●**会場**＝中里ユーモール

【クリスマス特別上映会】

「ポーラーエクスプレス―急行北極号―」●**日時**＝12月17日(日)午後1時30分～3時15分●**会場**＝千手中央コミュニティセンター

がちょうの会結成20周年記念 記念コンサート

●**日時**＝12月3日(日)午後2時～（開場1時30分）●**会場**＝千手中央コミュニティセンター「千年の森ホール」●**入場料**＝前売り500円●**内容**＝童謡・民謡・唱歌など●**チケット取扱い**＝千手中央コミュニティセンター●**問合せ**＝小野塚（☎090―5523―8595）

GUIDE 募集

県立魚沼テクノスクール 生徒募集

平成19年度生を募集します。●**科目**＝電気施設科、建築科、左官科●**定員**＝若干名（先着順）●**問合せ**＝魚沼テクノスクール（☎025―794―2410）

NPO法人「ネットワーク雪の里」 職員募集

平成19年4月1日採用の職員を募集します。●**募集期間**＝12月1日(金)～1月10日(水)●**募集人員**＝正職員・臨時職員・パート職員（合わせて16人程度）●**職種**＝給食調理、運搬業務ほか●**勤務地**＝中央学校給食センターまたは水沢学校給食センター●**申込み・問合せ**＝ハローワーク十日町（☎757―2407）、雪の里事務局（☎758―3929）

市営住宅入居者募集

公営住宅への入居者を募集します。●**募集期間**＝11月28日(火)～12月11日(月)※入居の資格条件があります。●**申込み・問合せ**＝建設課建築住宅係（内線251）

	物件		間取り	家賃（月）	募集戸数	備考
十日町地域	谷内丑市営住宅	平成7年度建築 鉄筋コンクリート3階建	6帖3室、DK	23,400円～38,700円	1戸	D303号室
		平成11年度建築 鉄筋コンクリート3階建	6帖1室、4.5帖1室、DK	17,700円～29,300円	1戸	E104号室（条件により単身入居可）
川西地域	みのり団地（特定公共賃貸住宅）	平成10年度建築 木造高床3階建	6帖3室、LDK	50,000円	1戸	206号室
松代地域	善宗塚市営住宅	昭和51・52年度建築 簡易耐火3階建	6帖1室、4.5帖2室、DK	12,000円～35,400円	4戸	8、11、17、21号室
	下町第2住宅（特定公共賃貸住宅）	平成7年度建築 木造高床3階建	10帖1室、8帖1室、6帖1室、DK	50,000円	1戸	A-3号室
松之山地域	松之山第一住宅	昭和55年度建築 簡易耐火高床3階建	6帖2室、DK	15,100円～25,000円	1戸	8号室

第58回 人権週間（12月4日～10日）

12月10日は人権デー
～育てよう 一人一人の 人権意識～

人は生まれたときからだれもが人権を持っています。自分の人権を大切にすることはもちろんですが、他人の人権も同じように大切です。思いやりの心とやさしさを忘れずに、心豊かな社会を実現させましょう。

人を差別したり、誹謗中傷したりすることは許されません。「これは人権問題ではないだろうか」と感じたり、困りごとや心配ごとがあったりしたら、法務局や人権擁護委員にお気軽にご相談ください。相談は無料です。秘密は固く守られます。

人権相談所開設します

●**日時**＝12月5日(火)　午前10時～午後3時
会場：上野コミュニティセンター
●**日時**＝12月6日(水)　午後1時～午後3時
会場：市役所、水沢地区公民館

【常設相談所】
新潟地方法務局十日町支局☎752-2575
※最寄りの人権擁護委員の住所・氏名は、法務局・市役所へお尋ねください。

10月5日(木)、田沢小学校で行われた「あったかハート♡集会」。県下12校に飛び散ったハートのかけらに、児童たちが人権の大切さを書き、それを集めて組み立てました。

3世代亥年生まれの家族など募集

市報1月10日号に登場していただく、3世代にわたって亥年生まれがいる家族や亥年生まれの夫婦、親子、孫と祖父母などを募集しています。年男・年女の皆さん、節目の年に記念として市報に出てみませんか。ぜひご応募ください。※自薦に限ります●**申込み・問合せ**＝12月11日(月)までに、総務課広報広聴係（内線213）

GUIDE 年金

国民年金保険料控除証明書を送付します

国民年金の保険料は、納付した全額が社会保険料控除の対象になります。社会保険業務センターから、平成18年中に納付した額を証明する「社会保険料（国民年金保険料）控除証明書」が、18年11月または19年2月に送付されます。年末調整や確定申告の際にはこの証明書または領収書が必要となりますので、申告まで大切に保管してください。●**問合せ**＝新潟社会保険事務局六日町事務所（☎025―770―2211）

年金受給者の現況届の提出が不要になります

12月以降に生まれた年金受給者から現況届の提出が不要になります。ただし、次に該当する人はこれまでどおり現況届が必要です。①社会保険庁で保有している本人基本情報と住民基本台帳の情報が相違している人（年金の住所変更手続きなどをしていない人）②外国籍（外国人登録）の人③外国に住んでいる人④加給年金を受けている人⑤障害年金を受けている人●**問合せ**＝新潟社会保険事務局六日町事務所（☎025―770―2211）

GUIDE 税

納税で　明るい未来　豊かな社会

11月の納税・納付

11月は固定資産税第4期、国民健康保険税第8期及び介護保険料第8期の納付月です。期限内に納めましょう。●**問合せ**＝税務課・保険年金課

むし歯のないよい歯の子

10月の3歳児健診を受けた子36人

よい歯の子	住所	保護者
庭野夏輝	（田川町1）	優由
齋木結衣	（四日町2）	視之
中村尚太	（背戸）	健一
曽根寛子	（上原）	一浩
池田桃乃	（北原）	剛
山田彩翔	（川治中町）	雅一
小野塚大一	（高田町4）	智紀
水澤優粋	（川治内後2）	雄
村山美欧	（城之古2）	三枝子
蕪木隼也	（千歳町1）	芳弘
田川涼汰	（下条栄町）	英則
丸山日向斗	（珠川）	順子
川上逸梨菜	（新宮1）	敦
丸山圭斗	（水沢2）	健治
村山拓海	（伊達2）	純一
高橋大空	（中仙田）	英宏
涌井怜央	（上野）	政弘
岩田歩	（みのり団地）	弘之
樋口彩乃	（荒屋）	毅
井ノ川	（如来寺）	寛之
池田	（松代）	清人

掲載にあたっては保護者の了解を得ています

GUIDE その他

外国人配偶者の両親などの滞在費一部助成

●**対象**＝十日町市民と婚姻した外国人配偶者の両親（両親が死亡しているときは兄弟）●**限度額**＝1人につき30、000円以内（1回の申請で2人まで）●**申請期限**＝対象者が市内に滞在している間●**申込み・問合せ**＝市民生活課市民係（内線153）

12月の休館日

●**中央公民館**＝毎週月曜日・23日(天皇誕生日)・29日(金)～31日(日)●**千手中央コミュニティセンター**＝毎週火曜日・23日（天皇誕生日）・29日(金)～31日(日)●**博物館**＝毎週月曜日・27日(水)～31日(日)●**情報館**＝毎週月曜日・29日(金)～31日(日)●**総合体育館**＝毎週火曜日・29日(金)～31日(日)●**川西総合体育館**＝13日(水)・27日(水)・29日(金)～31日(日)●**松代総合体育館**＝毎週月曜日・29日(金)～31日(日)

住宅が半壊以上の家屋 廃材運搬・処分費の無料期限の延長

中越大震災により住宅が半壊以上の認定を受けた家屋の解体・改修などの際の廃材運搬費及び処分費を無料とする期限は11月30日(木)までとしていましたが、平成19年2月28日(水)まで期限を延長します。処分費の無料には、事前に承認が必要ですので、早目に承認申請を行ってください。●**問合せ**＝環境衛生課（☎752―3924）

室野・竹所集落内の字区域の変更

12月1日から室野の一部が竹所に変更されます。●**問合せ**＝松代支所地域振興課（☎597―2220）

変更前		変更後	
大字	地番	大字	地番
室野	5262番1～5681番5（字居村）	竹所（たけところ）	5262番1～5681番5（字居村）
	5682番～5792番（字上石原）		5682番～5792番（字上石原）
	5793番～6003番（字大明劦）		5793番～6003番（字大明劦）
郵便番号	942-1353	郵便番号	942-1356

●ちびっこひろば

なかよしランド

親子のふれあいの場を提供します。

●日　時　5日㈫・12日㈫・19日㈫
　　午前10時～11時　※19日はクリスマス会
●対　象　3歳未満児とその保護者
●会　場　サンクロス
●申込み・問合せ　中央公民館　☎757-5011

おはなしたまてばこ

読み聞かせ、手遊びなどを行います。

●日　時　14日㈭　午前10時～11時
●対　象　乳幼児とその保護者
●会　場　情報館
●問合せ　情報館　☎750-5100

どんぐりおはなしのへや　～冬まつり～

スライド絵本や影絵、パネルシアターなどを行います。

●日　時　16日㈯　午前11時～正午
●対　象　幼児・小学生
●会　場　情報館
●問合せ　情報館　☎750-5100

●心の健康相談

●日　時　12日㈫　午後2時～4時
●会　場　松之山保健センター
●医　師　奈良医師（中条第二病院）
●申込み・問合せ
　健康支援課成人保健係（内線126）または、
　十日町地域振興局健康福祉部地域保健課
　☎757-2400

●全血献血

12月の献血はありません

●問合せ
　健康支援課地域医療係
　（内線128）

●健康相談　保健師による相談

期　日	会　場	受付時間
4日㈪・18日㈪	十日町保健センター	午前9時30分～11時30分
12日㈫	新座コミュニティセンター	午前9時30分～11時30分
	大井田コミュニティセンター	午後1時30分～3時30分
	川治公民館	午前9時30分～11時30分
14日㈭	吉田就業改善センター	午前9時30分～11時30分
	山谷集会所	午後1時30分～3時30分
	松代保育園	午前9時～11時
15日㈮	羽根川荘	午前9時30分～11時30分
	水沢公民館	午前9時30分～11時30分
	平成園	午後1時30分～3時30分
19日㈫	中里総合センター	午前9時～11時
20日㈬	千手中央コミュニティセンター	午前9時～午後4時30分
22日㈮	中条公民館	午前9時30分～11時30分
	北原集落センター	午後1時30分～3時30分
	下条公民館	午前9時30分～11時30分
	上新田自治会館	午後1時30分～3時30分
25日㈪	松之山支所	午前8時30分～午後5時

※健康手帳のある人はご持参ください。

●高年齢者職業相談

毎週月～金曜日午前9時～午後5時
　※29日㈮は休み
会場：高年齢者職業相談室（サンクロス十日町内）
おおむね45歳以上が対象です

●定例行政相談

毎月第2金曜日　午前10時～午後3時
会場：本庁市民相談室・行政相談室

●行政相談

【川西地域】19日㈫午後1時30分～4時
　会場：はあとふる川西
【中里地域】随時受付：行政相談員上原宅
　☎763-2617

●法律相談 電話で市民生活課市民係へ要予約

毎週木曜日　午後1時30分～4時
会場：本庁市民相談室・行政相談室

●定例社会保険・年金相談

14日㈭・27日㈬
午前10時～正午、午後1時～3時
会場：クロス10

●心配ごと相談 問合せ　社会福祉協議会☎750-5010

会場：社会福祉協議会（本所・支所）
時間：午後1時30分～4時
▽十日町本所　毎週木曜日　※28日㈭は休み
▽松之山支所　5日㈫　▽松代支所　1日㈮
▽中里支所　15日㈮　▽川西支所　19日㈫

●休日救急医

期　日	医療機関名	住　所	電話番号
3日㈰	中条病院	北　原	757-3018
10日㈰	富田医院	上新井	761-0200
17日㈰	上村病院	田　中	763-2111
	たかき医院	土市5	758-2361
23日㈷	本町クリニック	本町3	750-1160
24日㈰	川西診療所	高原田	768-2034
29日㈮	山口医院	下条中央通り	755-2003
30日㈯	小林内科医院	中　町	752-7155
31日㈰	田中外科医院	田中町本通り	752-2403

●救急医療機関の適切な利用に心がけましょう

「夜間の方がすいているから」「昼間は仕事があるから」などの理由で、軽い症状でも病院の休日や夜間の救急外来を受診する人が増えています。そのため、早急に治療が必要な重症患者への対応の遅れが懸念されています。

【できるだけ平日の昼間、
かかりつけ医で受診しましょう】

昼間の診療時間内は、医師だけでなく看護師や検査技師など多くのスタッフがそろっているので、検査や薬などもスムーズに受けられます。

●乳幼児健診

◎会　場…十日町保健センター（十日町市役所となり）
◎持ち物…母子健康手帳、問診票、
　フッ素塗布希望確認票（1歳6か月児のみ）
　視聴覚アンケート（3歳6か月児のみ）
　着替えやおむつなど必要なもの
◎対象の期日に受診できなかったときは、住んでいる本庁または各支所へ連絡してください。
◎3歳6か月児健診前に検査セットを送りますので、届かない人は本庁へ連絡してください。

事業名	期　日	受付時間	対象児
4か月児健診	20日㈬	午後1時～1時30分	18年8月生まれの乳児
10か月児健診	13日㈬	午後1時～2時30分	18年2月生まれの乳児
1歳6か月児健診	6日㈬	午後1時～1時30分	17年6月生まれの幼児
2歳6か月児身体測定	13日㈬	午前9時～9時30分	16年6月生まれの幼児
3歳6か月児健診	21日㈭	午後1時～1時30分	15年6月生まれの幼児

●離乳食教室

対象児と内容	開　催　日
2か月～4か月児 離乳食準備～前期	12日㈫

会　　場　十日町保健センター
受付時間　午前9時45分～午前10時
　　直接会場にお越しください
対象地域　全地域
持ち物　母子健康手帳

対象児と内容	開　催　日
2か月～4か月児 離乳食準備～前期	20日㈬

会　　場　千手中央コミュニティセンター
受付時間　9時45分～10時
　　直接会場にお越しください
対象地域　川西・松代・松之山
持ち物　母子健康手帳

予防接種・健康相談・休日救急医・乳幼児健診の問合せ

十日町本庁（代表）	川西支所（健康福祉課直通）	中里支所（健康福祉課直通）	松代支所（健康福祉課直通）	松之山支所（健康福祉課直通）
☎757-3111	☎768-4957	☎763-3121	☎597-2221	☎596-2169

あちこちだね

▼中学校の文化祭といえば合唱コンクールが定番ですが、吉田中学校では、今年初めて演劇を取り入れ、全校生徒79人全員で2つの演目に取り組みました。1か月半をかけ準備・練習を重ね見事大成功を収めたとのことです。取材で伺った先生のお話のとおり、校内の廊下に飾られている上演後の写真の中には、満足そうな生徒たちの笑顔が並んでいました。

▼本格的な冬ももうすぐ。冬の寒さ対策として衣類と衣類の間の空気が断熱材になり熱を蓄えるからだそうです。なので厚いセーター1枚よりも薄いインナーを重ねて着る方が暖かい。靴下を2枚履くことでも足元からくる寒さを防ぐことができます。寒さ対策をしっかりして厳しい冬を乗り越えましょう。

（優）

▼「特別なことをしたわけじゃない」「目の前のことに一つひとつ取り組んできただけ」「当たり前のことを続けた結果」…。叙勲・表彰を受けた皆さんの言葉です。謙虚で平凡なコメントですが、生の言葉には活字では表現できない強い説得力があります。「平凡なこと」に「一生懸命」「全力で」「誠実に」取り組んだという実績と信念が裏打ちされているからです。「この道何十年」は、地域の信頼なくして決して続かないということも、言葉・態度からひしひしと伝わります。

▼わずか30分足らずの取材の中で、「ああ、この人に会えて良かった」と心底思える瞬間。仕事みょう利に尽きるときです。「日ごろが大事」…実践しよう。

（わ）

とおかまち イチオシ 伝説まつり

毎月25日号の市報でおなじみの「おーい昔」。広い十日町市は伝説や物語の宝庫でもあります。語り継がれた伝説や物語は、その地域の特色を表すだけでなく、振興に役立つ遺産でもあります。伝説の舞台となった場所を訪れ、いにしえの世界に浸ってみませんか。

「龍馬(りゅうめ)」

上杉謙信が愛馬にし、川中島の合戦に出撃したと伝えられる名馬「龍馬」伝説の地。千手の馬市は、このことから開かれたものだと伝えられています。

※市報2006.6.25号(お～い！昔)「龍馬」の巻

▼場　所:水口沢地内

▼問合せ:川西観光協会☎768-4951

「鉢の石仏(いしぼとけ)」

この石仏ができたのは今から約250年前。ある曹洞宗の高僧がこの地で教えを説き、鉢の森で野宿をしていたところ、奇妙な石の上に不思議な「天灯」が降りてきました。高僧はこの地を永遠の仏法の霊場とするために、その石を本尊として小さな庵を結び、石仏山と名付けて開山したといいます。

※市報2006.11.25(おーい！昔)「鉢の石仏」の巻

▼場　所:鉢

▼問合せ:十日町市博物館☎757-5531

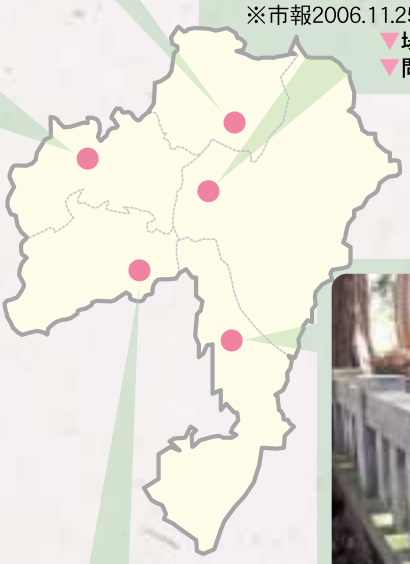
「田野倉の三九郎狐(さんくろうぎつね)」

昔、田野倉の大谷地に三九郎狐といういたずら狐がいて、いつも人を化かしては困らせたという伝説がいくつも残っています。地域の人々から親しまれていて、今ではムラおこしに一役買っています。

※市報2006.3.25号(お～い！昔)「三九郎狐とお弁」の巻

▼場　所:田野倉

▼問合せ:松代支所地域振興課☎597-2220



「梵天様(ぼんてんさま)と船石(ふないし)」

昔、大きな石が落ちてきて、その上に梵天様が乗っていました。梵天様は、村人たちを教え導きました。それから、村には良いことが続き、立派な村になりました。石は「船石」とも呼ばれ、くぼみの水は枯れることがないと言われています。

※市報2005.7.25号(お～い！昔)「船石」の巻

▼場　所:市之越

▼問合せ:中里支所地域振興課☎763-2511

日本二大伝説「松山鏡(まつやまかがみ)」

「松山鏡」の舞台になっている中尾の鏡ケ池。昔、大伴家持(おおともやかもち)が篠原刑部左衛門(しのはらぎょうぶざえもん)と名乗り住んでいましたが、その娘の京子が水面に映った自分の姿を亡き母と思い、池に飛び込んだという悲しいお話です。現在も刑部屋敷や御寮(ごいん)、つるねという家持にちなんだ地名が中尾に残っています。

※市報2006・11・25号(お～い！昔)「松山鏡」の巻

▼場　所:中尾

▼問合せ:松之山観光協会☎596-3011

■発行/十日町市役所　〒948-8501 新潟県十日町市千歳町3丁目3番地　TEL.025-757-3111　FAX.752-4635
E-mail info@city.tokamachi.niigata.jp　URL http://www.city.tokamachi.niigata.jp　■編集/総務課広報広聴係
携帯サイト